

### 3. 工作の手順

(1) コンロのダンパー用のブリキ板をとりはずす。

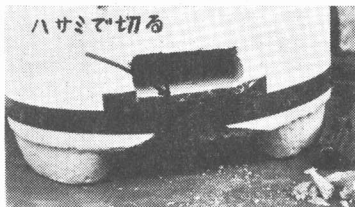


写真5 ブリキをはずしたダンパー口

の板は写真のように金切りハサミで切った方がよい。

(2) 内壁にマジックでニクロム線を入れる溝を描く。

溝は全部で4個の山ができるようにし、ダンパー穴の箇所がちょうど端子になるから、端子近くの溝は谷になるように設計

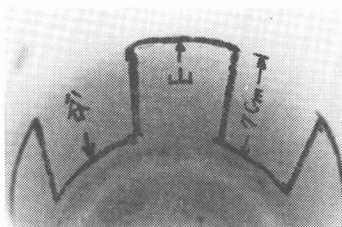


写真6 マジックで溝を描く

する。山や谷の配置は、周囲に8つの穴があいているので、これに間隔を合せ、山の高さは上のふちから4.5cm、溝の高さを7cmくらいにする。

(3) 溝を掘る。



写真7 溝を掘ったところ

入るくらいの一定の深さに切削するが、珪藻土はもろいので、よけいな箇所まで剥がれないように繊細な注意が必要である。

(4) 端子の大きさをきめる。

ダンパー穴にL型コード端子をあてがって、鉛筆で型どりを

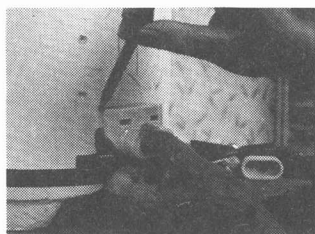


写真8 端子の型をとる

コンロの下方にあるダンパー穴を利用して、そこに端子をとりつけるので、不要なブリキ板を剥がすわけではないが、保護用

(5) 端子をうめ込み溝をつくる。

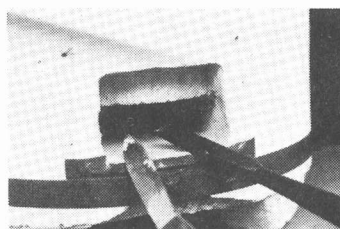


写真11 端子の埋め込み溝

(6) L型コード端子を取りつけてみる。

端子を取りつけても、ぐらつかぬよう切削の微調整が必要である。

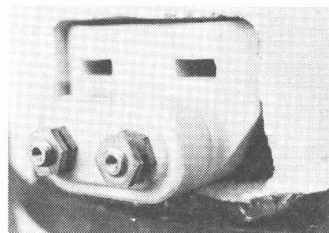


写真10 端子を取りつけてみる

(7) 電源からニクロム線への模擬配線

ニクロム線と中継端子、銅線（コードの被覆を剥いだ線、約6cm）、L型キャップ、耐熱プラグ、そし

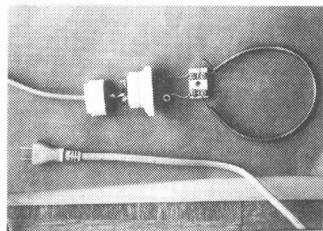


写真11 模擬配線

てコード、コンセントキャップを接続してみたのが写真11である。実際の場合にはニクロム線は窯内の溝の長さ

(8) ニクロム線の配線と端子接続

溝の長さに伸ばしたニクロム線を配線したのが写真12である。最初、くせのないうちに、きちんと配線することが肝心である。また熱せられたニ

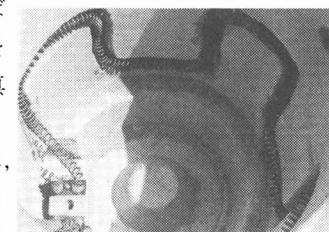


写真12 ニクロム線の配線

クロム線が外れぬよう、要所に素焼鉢などのカケラを詰めるような工夫が必要である。

埋め込んで同一平面になるだけの溝をつくる。切削する場合、初めから深く削らず、輪かくをナイフで切りこんでからノミで削り取る。

てコード、コンセントキャップを接続してみたのが写真11である。実際の場合にはニクロム線は窯内の溝の長さ